

課題：「ダンチを再考する」 応募要領

主催——日本建築学会

後援——日本建設業連合会、日本建築家協会、日本建築士会連合会、日本建築士事務所協会連合会(以上、予定)

ここで取り上げる「ダンチ」は公営住宅や公団住宅(現UR住宅)の建ち並ぶ集合住宅団地である。

ダンチは戦災で疲弊したわが国の圧倒的な住宅不足(420万戸と言われる)を解決するための国家の重要な施策として生み出された。1950年の住宅金融公庫設立、1951年の公営住宅法の制定、1955年の日本住宅公団の設立が戦後の住宅政策の3本柱と言われるが、そのうちの2つ、公営住宅と公団住宅がダンチをもたらした主体である。

日本人の家族に(狭いながらも)きちんとした居場所を提供したのがダンチだったが、鍵のかかる住まい、洋式トイレや内風呂のある暮らし、ステンレス流し台、ダイニングキッチン、そういった全てが戦後民主主義社会のもたらした生活シンボルであり、社会の近代化の象徴として、社会に熱狂的に受け容れられた。

その後、1960年の所得倍増計画、1964年の東京オリンピックなどを契機として、日本経済は「テイクオフ」し高度経済成長期に突入した。1970年の大阪万博は社会変化を体験し、実感する場所だった。1973年には住宅建設は年間190万戸のピークを迎えるが、その年はオイルショックが日本社会を直撃した年でもあった。その後のバブル経済とその崩壊、ポストバブルの複合不況、人口減少と高齢化社会の到来…確かに日本は高度経済成長期を経て短期間に「先進国」のひとつに到達したかもしれないが、その代償として家族や共同体は大きく変容した。

今日、ダンチはどうなっているだろうか。

ダンチは畑地や雑木林を取り払って人口の浮島のように出現したが、今やダンチの周囲はすっかり宅地化あるいは都市化していて、緑の多いダンチはあたかも公園のように見える。ダンチの周囲には近隣住区理論に従って小学校が作られたが、少子化に伴い、多くの小学校は不要になった。団地内のショッピングセンターは、ダンチ住民はそこしか買物する場所がなかったので、物販も飲食も繁盛したが、それも今や過去の物語である…ダンチを単なる住宅地としてでなく、小さな都市あるいは小さな都市の一部と考えるなら、少子高齢化、空き家(空室)、シャッター街などの都市問題がダンチにもパラレルであること、そして多くの場合、ダンチでは都市以上に問題が顕在化していることがわかるだろう。君の周囲にもこういった

ダンチがあるのではないだろうか?そういったダンチをよく観察し、デザイン思考することで、ダンチを社会の大きなストックとして捉え、その活用のための新しい提案を考えてもらうのがこの課題の趣旨である。

注1) 「ダンチ」はいつから日本社会に受容されたのだろうか。「団地へのあこがれを再び」(朝日新聞2008年6月22日)には記事の冒頭に「1958年の流行語『団地族』とある。『青春の設計』(1952)から『燃えつきた地図』(1968)へ」(国際交流基金日本研究フェローセミナー、2018年9月20日)では、工学院大学客員研究員のジョン・リージャー氏と早稲田大学文学学術院教授の鳥羽耕史氏から、両映像作品の合間すなわち1952年から1968年の間に「団地」という語が市民権を得たのではないかという興味深い指摘があった。それは上述の新聞記事の1958年の流行語が「団地族」だったこととも呼応する。『青春の設計』ではあこがれの対象だった団地が、安倍公房の世界ではすでに団地は匿名性をもった近代空間として描かれているのである。

注2) 「団地」を「ダンチ」とカタカナ表記しているには理由がある。上述のリージャー氏もその一例だが、この頃「団地」に興味を持つ海外からの視点に出会うことがままある。日本人には古ぼけた住宅団地が、海外の目には、社会の近代化と近代建築のプロセスをストレートに表現した一種の近代化遺産として新鮮に映るようだ。“danchi”が“sushi”のように世界共通語として認知される日が来るかもしれないことを期待して、敢えてカタカナ表記を採用した次第である。

審査委員長 渡辺真理

応募規定

A	課題 「ダンチを再考する」
B	条件 実在する団地(ダンチ)を計画対象に設定すること。デザイン提案は必ずしも現行の法規制と適合させる必要はないが、リアリティを感じさせるものであってほしい。
C	提出物
1	下記より応募申込書をダウンロードのうえ、必要事項を入力したものを印刷してください。 http://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2019/compe.doc
2	計画案 下記①～③をA2サイズ2枚(420×594mm)に収めてください。模型写真等を自由に組み合わせ、わかりやすく表現してください。 ① 設計主旨(文字サイズは10ポイント以上とし、600字以内の文章にまとめる。) ② 計画条件・計画対象の現状(図や写真等を用いて良い) ③ 配置図、平面図、断面図、立面図、透視図(縮尺明記のこと) ※ 用紙サイズは厳守。変形不可、2枚つなぎ合わせることは不可です。裏面には、No.1、No.2と番号を付けてください。仕上げは自由としますが、パネル、ボード類は使用しないでください。写真等を貼り付ける場合は剥落しないように注意してください。模型、ビデオ等は受け付けません。
3	作品名・設計主旨 「2 計画案」の作品名と設計主旨(図表、写真等は除く)を記載したものをA4判1枚に印刷してください。
4	データ 下記①～④をCDまたはDVD1枚に収めてください。 CDまたはDVDには、代表者の氏名と所属を明記してください。
①	「1 応募申込書」のWordファイル
②	「2 計画案」のA3サイズのPDFファイル(画質は350dpiを保持し、容量は100MB以内とする。)
③	作品名および設計主旨の要約(200字以内)のテキストデータ
④	顔写真(横4cm×縦3cm以内、顔が写っているものに限る。)
※	4は審査対象の資料としては使用せず、入選後に刊行される「2019年度日本建築学会設計競技優秀作品

集』(技報堂出版)および『建築雑誌』11月号入選作品紹介の原稿として使用いたします。

D

注意事項

- 1.....計画案および設計主旨の概要文用紙には、応募者の氏名・所属などがわかるようなものを記入してはいけません。
- 2.....応募作品は、本人の作品でオリジナルな作品であること。
- 3.....応募作品は、過去、現在申込み中のものも含めて、他の設計競技等に応募している作品(2重応募)、インターネット、出版物、その他のメディアで発表されたものは応募できません。
- 4.....応募作品は、全国2次審査が終了するまで、あらゆるメディアでの発表を禁じます。
- 5.....提出物は、返却致しません。必要な方は作品の控えと作品データを保管してください。
- 6.....質疑は受け付けません。
- 7.....**応募要領に違反した場合は受賞を取り消すことがあります。**

E

応募資格

本会個人会員(準会員を含む)、または会員のみで構成するグループとします。なお、同一代表名で複数の応募をすることはできません。

- ※ 未入会者、2018年度会費未納者ならびにその該当者が含まれるグループの応募は受け付けません。応募時までに入会および完納すること。

F

提出方法

- 1.....C.の提出物①～④を一括して提出してください。
- 2.....応募作品は1案ごとに別々に提出してください。
- 3.....締切期日:**2019年6月17日(月) 17:00必着**
- 4.....提出先:計画対象の所在地を所轄する本会各支部の事務局とします。例えば、関東支部所属の応募者が、東北支部所轄地域内に場所を設定した場合は東北支部へ提出してください。海外に場所を設定した場合は、応募者が所属する支部へ提出してください。
- 5.....各支部事務局 所在地一覧
 - 北海道支部(北海道)
〒060-0004 札幌市中央区北4条西3丁目1
北海道建設会館6階
TEL 011-219-0702
 - 東北支部(青森、岩手、宮城、秋田、山形、

福島)
〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-5-15

日本生命仙台匂当台南ビル4階
TEL 022-265-3404

関東支部(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨)

〒108-8414 東京都港区芝5-26-20
TEL 03-3456-2050

東海支部(静岡、岐阜、愛知、三重)
〒460-0008 名古屋市中区栄2-10-19

名古屋商工会議所ビル9階
TEL 052-201-3088

北陸支部(新潟、富山、石川、福井、長野)
〒920-0863 金沢市玉川町15-1

パークサイドビル3階
TEL 076-220-5566

近畿支部(滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)

〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4 大阪科学技術センター内

TEL 06-6443-0538

中国支部(鳥取、島根、岡山、広島、山口)
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47

広島県情報プラザ5階 広島県建築士会内

TEL 082-243-6605

四国支部(徳島、香川、愛媛、高知)
〒782-0003 香美市土佐山田町宮ノ口185

高知工科大学地域連携棟201
TEL 0887-53-4858

九州支部(福岡、佐賀、長崎、熊本、宮崎、大分、鹿児島、沖縄)

〒810-0001 福岡市中央区天神4-7-11 クレアビル5階

TEL 092-406-2416

G

審査方法

- 1.....支部審査
各支部に集まった応募作品を支部ごとに審査し、応募数が15点以下は応募数の1/3程度、16～20点は5点を支部入選とします。また、応募数が20点を超える分は、5点の支部入選作品に支部審査委員の判断により、応募数5点ごと(端数は切り上げ)に対し1点を加えた点数を上限として支部入選とします。
 - 2.....全国審査
支部入選作品をさらに本部に集め全国審査を行い、H項の全国入選作品を選出します。
- ① 全国1次審査会(非公開)

全国2次審査進出作品のノミネートとタジマ奨励賞の決定。

② 全国2次審査会(公開)
ノミネート者によるプレゼンテーション

を実施し、その後最終審査を行い、各賞と佳作を決定します。なお、代理によるプレゼンテーションは認めません(タジマ奨励賞のプレゼンテーションはありません)。

日時:**2019年9月3日(火)**
10:00～15:00

場所:金沢工業大学(大会会場:石川県野々市市扇が丘7-1)

※ **大会参加費、旅費等の費用負担は一切いたしません。**

プログラム(予定):
10:00～ 開場

10:15～12:00 ノミネート者によるプレゼンテーション(発表時間8分間/PCプロジェクターは主催者側で用意します。パソコン等は各自で用意してください。)

13:00～15:00 公開審査

16:15～17:00 表彰式

* プログラムは、大会スケジュールにより時間が多少前後する場合があります。

3.....審査員(敬称略順不同)

〈全国審査員〉
委員長 渡辺 真理(法政大学教授)

委員 大月 敏雄(東京大学教授)

小林 光(日本大学准教授)

井関 和朗(団地研究所代表)

本江 正茂(東北大学准教授)

前田 茂樹(ジオグラフィック・デザイン・ラボ)

平山 文則(岡山理科大学教授)

〈支部審査員〉
北海道支部 山田 良(札幌市立大学准教授)

赤坂真一郎(アカサカシンイチロウアトリエ代表取締役)

久野 浩志(久野浩志建築設計事務所代表)

小西 彦仁(ヒココニシアーキテクチャ代表取締役)

山之内裕一(山之内建築研究所代表)

東北支部 小林 仁(仙台高等専門学校教授)

小地沢将之(仙台高等専門学校教授)

菅原麻衣子(she | design and research office 主宰)

飛ヶ谷潤一郎(東北大学准教授)

馬渡 龍(八戸高等専門学校准教授)

関東支部 精木 賢一(安井建築設計事務所設計主幹)

有吉 匡(梓設計常務取締役執行役員アーキテクト部門代表)

東海支部	菅原 大輔 (SUGAWARADAIISUKE 建築事務所代表)
	田村 圭介 (昭和女子大学准教授)
	馬場 兼伸 (*B2Aarchitects*)
	安井 秀夫 (愛知工業大学教授)
	橋本 雅好 (相山女学園大学准教授)
北陸支部	平野 章博 (日建設計設計部門設計部 主管)
	丹羽 哲矢 (clublab 代表)
	木下 誠一 (三重短期大学教授)
	熊澤 栄二 (石川工業高等専門学校 建教授)
	棒田 恵 (新潟大学助教)
近畿支部	光田 章 (富山県建築住宅センター 専務理事)
	宮下 智裕 (金沢工業大学准教授)
	高嶋 猛 (高嶋建築研究所代表)
	寺内美紀子 (信州大学准教授)
	白井 明夫 (鴻池組設計本部建築設計第1部部长)
中国支部	梅田 善愛 (竹中工務店大阪本店設計第7部部长)
	楠 敦士 (安井建築設計事務所部長)
	末包 伸吾 (神戸大学教授)
	松原 茂樹 (大阪大学准教授)
	岩本 弘光 (岡山県立大学教授)
四国支部	岡河 貢 (広島大学准教授)
	小川 晋一 (近畿大学教授)
	村上 徹 (村上徹建築設計事務所 主宰)
	岡松 道雄 (山口大学教授)
	佐藤 昌平 (佐藤昌平建築研究所主宰)
九州支部	中川 俊博 (中川建築デザイン室代表 取締役)
	徳弘 忠純 (徳弘・松澤建築事務所 共同主宰)
	松浦 洋 (松浦設計代表取締役)
	鶴飼 哲矢 (九州大学准教授)
	小林 省三 (大隅家守舎取締役)
	柴田 建 (大分大学准教授)
	福田 展淳 (北九州市立大学教授)
	松野尾仁美 (九州産業大学准教授)

H	賞および発表
1	賞
①	支部入選者：支部長より賞状および賞牌を贈ります(ただし、全国入選者・タジマ奨励賞は除く)。
②	全国入選者：次のとおりとします(合計12点以内)。
最優秀賞	2点以内 賞状・賞牌・賞金(計100万円)
優秀賞	数点 賞状・賞牌・賞金(各10万円)
佳作	数点 賞状・賞牌・賞金(各5万円)

- ③ タジマ奨励賞：10点以内 賞状・賞牌・賞金(各10万円)(タジマ奨励賞は、タジマ建築教育振興基金により、支部入選作品の中から、準会員の個人またはグループを対象に授与します。)
- 2 入選の発表
- ① 入選の発表
- 支部審査の結果：各支部より応募者に通知(8/6以降予定)
 - 全国審査の結果：支部入選者には、全国1次審査結果を8月上旬に通知
 - 全国入選作品・審査講評：『建築雑誌』2019年11月号誌上発表
 - 全国入選作品展示：大会会場にて展示
- ② 支部入選者賞の贈呈：各支部による。全国入選者表彰式：9月3日(火)金沢工業大学(大会会場)

I 著作権

入選作品の著作権は、入選者に帰属します。

ただし、建築学会及び建築学会が委託したものが、この事業の主旨に則して入選作品を会誌またはホームページへの掲載、紙媒体出版物(オンデマンド出版を含む)及び電子出版物(インターネット等を利用し公衆に送信することを含む)、展示などでの公表等に用いる場合、入選者は無償で作品データ等の利用を認めることとします。

J 問合せ(本部・支部事務局)

日本建築学会 各支部事務局
設計競技担当(F⑤参照)

日本建築学会 本部事務局
設計競技担当

〒108-8414 東京都港区芝
5-26-20 TEL 03-3456-2056

優秀作品集について

全国入選・支部入選作品は『日本建築学会設計競技優秀作品集』(技報堂出版)に収録し刊行されます。過去の作品集も、設計の参考としてご活用ください。

〈過去5年の課題〉

- 2018年度「住宅に住む、そしてそこで稼ぐ」
- 2017年度「地域の素材から立ち現れる建築」
- 2016年度「残余空間に発見する建築」
- 2015年度「もう一つのまち・もう一つの建築」
- 2014年度「建築のいのち」

〈詳細・販売〉

技報堂出版

<http://gihodobooks.jp/>